

『平家物語』扇の的群読台本【平家軍】【源氏軍】

群読台本【平家軍】【源氏軍】

沖には平家、舟を一面に並べて見物す。

強く やや強く

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。

強く やや強く

[読み方の工夫]

- 戦場という緊迫した場面。激しい北風が吹く、身の引きしめる場面。
- 命懸けの与一。
- 戦場という場面なので、それに合うような力強い声で読めるようにする。
- 平家軍は源氏軍にまけないように半歩前へ出る。源氏軍の大將に向かって大きな声で。
- 扇をかざして舟に乗っていたのは女房。平家は貴族文化。弱い軍隊。戦に負けている。
- 源氏軍は、荒々しい性格を声で表せるように。平家軍にまけない大きな声で。平家軍の大將に向かって力強く。半歩前へ出る。
- 敵の大將を矢で射る代わりに声で張り倒す気持ちで鋭い声をぶつける。自軍の中で自分が最も強いという意識で、手柄を立てる気持ちで突っ走る。
- 呼吸が楽なようにシートを片手で持つ。背筋を伸ばして声を張る。腹から声を出す。

沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、 「おお、すごい」と驚いている感じで

強く やや強く

陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。 「よくやった」とほめている感じで

平家軍よりも強く 強く

平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。

少しおさえめ 「よくやった」という感じで

「あ、射たり。」と言ふ人もあり、また、「情けなし。」と言ふ者もあり。

源氏軍大將賛成派（源氏軍の半数程度） 低い声で 源氏軍大將否定派（平家軍、源氏軍の半数）